

使える制度チェックリスト

制度を利用する場合、初診日（認知症や物忘れを心配して初めて病院を受診した日）が重要です。ご自身の初診日を主治医の先生に確認するなどして記録しておきましょう。

初めて医療機関を受診した日（初診日）： _____ 年 月 日

初診日に受診した医療機関： _____

✓	制度名	申請日	メモ	ハンドブック
	自立支援医療	年 月 日		P10
	精神障害者保健福祉手帳	年 月 日		P28
	重度障がい者医療費無料化対策事業	年 月 日		P11
	特定医療費（指定難病）支給認定制度	年 月 日		P11
	傷病手当金	年 月 日		P18
	雇用保険（失業給付）	年 月 日		P20
	障害基礎年金・障害厚生年金	年 月 日		P35
	障害福祉サービス	年 月 日		P29
	介護保険サービス	年 月 日		P31

どの制度が利用できるかは個々の事情によって異なります。若年性認知症相談窓口やそれぞれの窓口でご自身が使える制度を確認し、申請を忘れないように使えるものにはチェックを入れましょう。また、上の表以外の制度が利用できる場合もあります。詳しくは若年性認知症相談窓口にお尋ねください。

福井県若年性認知症相談窓口

〒910-0017

福井県福井市文京2丁目9番1号（公益財団法人 松原病院内）

電話：0776-63-5488（平日 9:00~17:30）

FAX：0776-63-6756

ホームページ：https://www.j-monowasure.com



福井県

若年性認知症ケアパス

ご本人・ご家族用



若年性認知症は65歳未満で発症する認知症です。

この若年性認知症ケアパスは、認知症の状況に応じてどの時期にどのような制度やサービスを利用できるか、ご本人・ご家族・支援に関わる関係者の方が支援の流れを確認・共有するために活用していただくものです。

若年性認知症の方は早期に受診し相談することで、就労を継続するための支援や、経済的な負担を軽減する制度なども利用できます。利用できる支援や制度は個々の状況や病状によって異なりますので、若年性認知症相談窓口では一人一人の状況に応じて、適切な関係機関と連携し、支援を行っています。

各制度やサービスの詳細は福井県若年性認知症ハンドブックを参考にしてください。



若年性認知症は時期に応じた対応が重要です。それぞれの時期の生活のポイントや利用できる制度・相談先を確認しましょう。
 制度や相談先の詳細については、福井県若年性認知症ハンドブックの該当ページを確認しましょう。★は経済的な負担を軽減する制度です。

ご本人の様子

気になる症状があるとき

- 忘れっぽくなった。
- 今までどおりに仕事ができなせん。
- やる気が出ない。



【受診・治療】

- 定期的に健康診断を受け、生活習慣病などの持病のある方は治療を受けておきましょう。
- 気になる症状があるときは、早めにかかりつけ医や職場の産業医に相談しましょう。
- 制度の手続きの際、受診前からの様子や受診状況、経過等の情報が必要になる場合があります。いつでもに受診したかやその時のご本人の様子、出来事などを記録しておきましょう。



受診し、診断を受けたとき

- 仕事で注意を受けることが増えた。
- 慣れているはずの仕事で迷ってしまう。



【受診・治療】

- 仕事や日常生活など普段の様子をよく知る、ご家族や職場の上司と一緒に認知症専門医や物忘れ外来を受診しましょう。
- 認知症疾患医療センター／認知症サポート医 P50
- 最初の受診で異常なしとなった場合でも、症状が改善しない場合や、時間の経過とともに症状が目立つような場合には再度受診しましょう。



生活や仕事に不便があるとき

- 物忘れや探し物が増えてきた。
- 買い物が上手くできなくなった。
- お金の管理が大変になった。



【受診・治療】

- ご家族も付き添って定期的に通院し、主治医から病状や治療の説明を聞き、生活状況を伝えましょう。
- お薬の管理方法を工夫しましょう。
- 医療費を軽減する制度が利用できます。
- ★自立支援医療 P10
- ★重度障がい者医療費無料化対策事業 P11
- ★特定医療費（指定難病）支給認定制度 P11



生活にサポートが必要なとき

- 知っているはずの道で迷うことがある。
- 言いたいことが上手く言葉にできないことが増えた。
- 着替え、入浴など身の回りのことが上手くできない。



【受診・治療】

- 定期的に通院し、困った行動や気になる症状があれば、主治医に相談しましょう。
- 薬がきちんと飲めるよう、必要に応じて周囲がサポートしましょう。
- 認知症の症状以外の体調の変化にも周囲が気を配りましょう。



生活のポイント

【家庭生活】

- ご家族や友人など身近な人と日ごろからコミュニケーションをとり、困ったときに相談できるようにしておきましょう。
- 最近元気がない、仕事の愚痴が増えたなどいつもと違う様子が見られたら、困っていることや心配なことがないか、ご本人に話を聞いてみましょう。
- 地域ごとに設置された、地域包括支援センターでは身近な相談窓口として保健・医療・福祉の様々な相談に対応しています。
- 地域包括支援センター P51



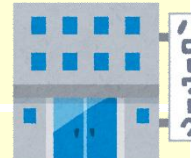
【家庭生活】

- できるだけ今までどおりの生活を送り、家庭内での役割も継続しましょう。
- 家事の負担が大きい場合はご家族と分担したり、在宅サービスを活用しましょう。
- 障害福祉サービス P29 介護保険サービス P31
- 家庭や職場以外の居場所や人とのつながりを持ちましょう。ご本人・ご家族同士の交流の場にご家族と一緒に参加してみましょう。
- 本人・家族の交流の場 P53



【家庭生活】

- ご家族と相談して、状況に応じた日中の過ごし方を考え、生活リズムを整えましょう。
- 信頼できる人には病気のことを伝えましょう。
- お金の管理や契約に不安がある場合は、ご家族や専門機関のサポートを受けましょう。
- 日常生活自立支援事業 P44
- 成年後見制度 P45



【仕事】

- 職場の上司や同僚とよくコミュニケーションをとり、困ったときに気軽に相談できる関係を作りましょう。
- 仕事や職場の人間関係などで困ったことがあるときは早めに上司や信頼できる人に相談しましょう。
- 若年性認知症相談窓口では受診前の相談にも応じています。匿名でも相談できますので、お気軽にご連絡ください。
- 福井県若年性認知症相談窓口 P50



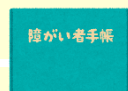
【仕事】

- 診断のために通院や入院が必要になることもあります。休暇の取得について、職場に相談しましょう。
- 診断後は職場に相談し、必要に応じて配置転換や勤務時間の変更なども検討してもらいましょう。
- 勤務先によっては、仕事と治療の両立のための制度を設けている場合もあります。職場の就業規則を確認しましょう。★傷病手当金 P18
- 予定や約束は忘れないようにメモを取るなどの工夫をしましょう。



【仕事】

- 安全な通勤方法を考えましょう。
- 障害者手帳を取得して障害者雇用に切り替えたり、負担の少ない就職先を探すこともできます。
- 精神障害者保健福祉手帳 P28 ハローワーク P17
- 家庭生活に支障がなくても、仕事では支障が出ている場合があります。仕事を続けるために就労支援の専門機関に相談し、助言や支援を受けましょう。
- 障害者職業センター P15
- 障害者就業・生活支援センター P16



【仕事】

- ご本人の様子をご家族、支援者、職場で共有し、主治医とも相談しながら休職・退職の時期を検討しましょう。退職時の社会保障制度の手続きを確認しておきましょう。★傷病手当金 P18
- ★雇用保険（失業給付） P20
- ★障害基礎年金・障害厚生年金 P35
- ★退職時の手続き P22~26
- 福祉的就労を活用し、役割ややりがいを持つこともできます。障害福祉サービス P29



【ご本人】

病気が分かった後も職場に病気のことを伝えて、仕事を続けています。職場の人がよく気にかけて声をかけてくれるので安心できるし、困っていたら助けてくれます。仕事を続けられることで、必要とされていると感じるので、できるだけ長く働けたらと思っています。

認知症であっても、自分にできる活動を見つけて取り組むことが大切だと思います。



【就労支援機関職員】

就労支援機関では、若年性認知症相談窓口や、医療機関、ご家族などと連携し、若年性認知症の方が職場で働き続けるための支援を行っています。

今まで行ってきた仕事で難しくなってきた場合、職場の理解を得て、負担が少ない仕事に配置換えしてもらったり、職場に配慮してもらい働き続けることが可能な場合もあります。

お気軽にご相談ください。



【介護支援専門員（ケアマネジャー）】

介護支援専門員は若年性認知症相談窓口や就労支援機関の方と連携しながら、ご本人やご家族がその人らしく生活できるように、何かしら不便を感じた時に活用できる制度の紹介や介護サービスの利用の提案等をしていきます。

40 歳以上の方は介護保険サービスを利用できる場合があります。仕事を続けながらヘルパーさんと一緒に家事をする、心身のリハビリの為に通所サービスを利用するなど、ご本人・ご家族と相談しながら支援していきます。



【ご家族】

認知機能の低下により私も精神的に相当に疲れた時期になり、要介護 1 の認定を受けてケアマネジャーの方と話す機会が持てました。認知症が引き起こす周辺症状への対応や介護者の心と体の健康の大切さを知り、人に話すことで心が軽くなることに気づきとても有意義でした。

一人で抱え込んで共倒れになる前に、施設利用などお互いの距離を保つことが、本人にも介護する家族にもいかに大切かを身に染みて感じました。

